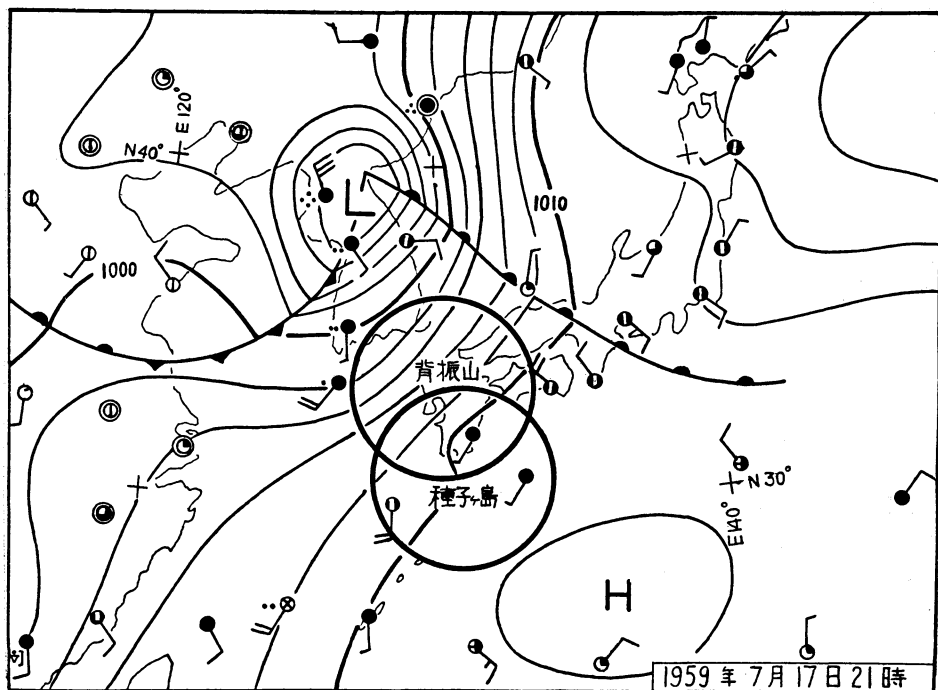


## 福岡レーダーと種子島レーダーの composite PPI\*

種子島測候所



第1図 7日21時地上天気図

太い線で囲んだ円は半径300kmのレーダー探知範囲を示す。

種子島レーダーは昭和34年6月に完成して、7月からルーチン観測を開始した。このレーダーは島のほぼ中央部、この島のうちでは最も高い海拔280mの地点にあって、わが国で求められるレーダー設置点としては、まず理想的な地の利を占めている。一方、福岡の背振山レーダーは4年前の昭和30年8月に設けられたものであるが、両者のコンビによって、レーダー探知範囲が大きく広がることになった。この二つのレーダー間の距離は、各レーダーの最大探知距離300kmにほぼ近いこともつごうがよい。お互の掃査地域が適当にオーバーラップするので、同一のエコーを違った角度から同時に観測することができるからである。このことはエコーを解釈する上にたいへん役に立つ。

観測網としてのレーダーを利用する一つの方法は、同

時刻に撮影した各レーダー・エコーの写真を重ねて composite PPI をつくることであるが、ここに示した写真は日本でつくられたその最初のものである。7月日夜大陸東岸沿いに北上した台風5号くずれは、寒冷前線を伴って朝鮮北部から日本海に抜けたが、(第1図参照)写真はその前線に先行する、いわゆる不安定線の降羽エコーであって、写真1(a)および1(b)は、それぞれ21時における背振山および種子島レーダー単独のエコー、写真2はこの二つを重ね合せたものである。このエコーは東に移動して時には写真3のようになった。なおこの不安定線エコーの後を追って、寒冷前線と思われる線状エコーが西の方から現われ24時には敵原の西方約60kmに達しているが、このエコーは強さもひろがりも前者よりもかなり小さいので、写真3ではほとんど認めることができない。

☆ ☆ ☆

\* The Composite PPI of Fukuoka and Tanegashima Radars—1959年9月10日受理—